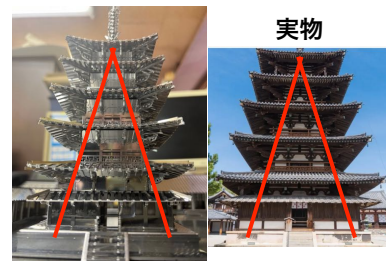


○五重塔

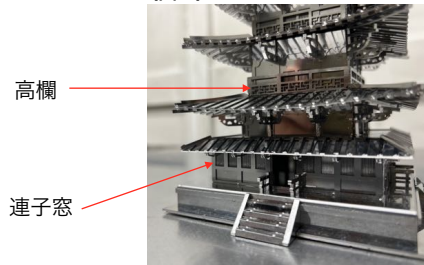
・初層から上層階の面積の逓減率は0.5、つまり最上階は初層の半分の大きさになる。このAラインを崩さないように計算して設計し、屋根の角度を調整しました。(図1)

(図1) 実物との比較



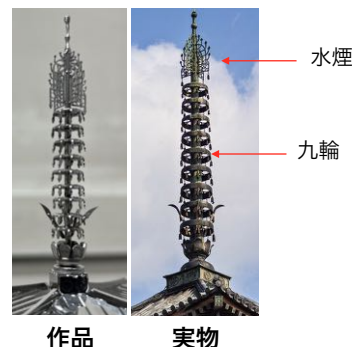
・装飾は円崩しの高欄や、各階の連子窓をスリット加工で表現。(図2)

(図2)



・特に屋根上部分の装飾においては再現性が高く、水煙のデザインも実物同様に、九輪には複合機(LC-2012 C1 NT)にて絞り加工をし、OVSを使って、外径の微細な加工をレーザー加工機(BREVIS AJ1212)で複合加工を行うことにより、本物さながらに作ることができました。(図3)

(図3) 実物との比較



・溶接に至っては、部品が邪魔をしてトーチが入らない箇所が多く、溶接箇所ごとに焦点を調整し、隙間を縫ってレーザー溶接をしました。

○金堂

・建築形式は五重塔と類似しているが装飾に違いがあり、上層部の屋根側面の装飾(妻飾り)は実際には目視できない為、資料を見て同様にデザインしました。(図5)

(図4) 実物との比較
作品



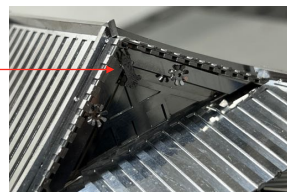
実物



・金堂の見どころである二層目を支える柱の龍の彫刻は柱となるパーツに巻き付けて表現しました。(図6)

(図5)

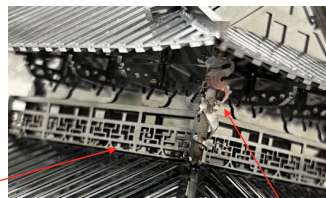
妻飾り



・金堂の高欄部には人字形割束があり、五重塔とは少し異なる高欄になっています。(図6)

(図6)

人字形割束



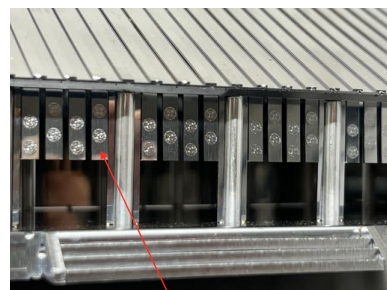
龍の彫刻

○大講堂

・面積が一番大きな建物ではあるが、外観はとてもシンプルな造りになっております。

・柱の間に掛かっている几帳に描かれている紋様(四天王紋)は、けがき加工で再現し、この几帳は他の建物にもかけられていて、各建物でそのサイズや模様の数が違う所も再現しています(図7)

(図7)



四天王紋